

## 渡辺将議員

### 第1 標題「新総合体育館の整備計画について」

#### 1 回目の質問

皆さま、こんにちは。

ただいま、議長より質問の許可を頂きました渡辺将でございます。

質問に先立ちまして、未だに猛威を奮っている新型コロナウイルスに対して、市長を中心として日々努力している職員の皆様方に敬意と感謝を申し上げます。また、日々新型コロナウイルスの対策をしている市民の皆さん、勇気と元気を出して頑張りましょう。コロナ感染症が1日も早く収束することを願っております。

それでは令和4年9月定例会において「新総合体育館の整備計画について」一般質問をさせていただきます。

令和3年9月定例会で新総合体育館の一般会計補正予算が提案され、議会で可決されました。体育に携わってきた私にとっては、「いよいよだ」と感動した一瞬でもありました。それを知った競技団体の関係者はもちろん、多くの市民の皆さんもそう感じたに違いありません。

現鐘山総合体育館は使い勝手が悪く利用する市民から不評ばかり耳にします。

現体育館は、昭和56年に建設され、昭和61年の「かいじ国体」では剣道競技の会場として使用されました。しかし、観客を入れることを想定して設計されていなかった為、固定の観客席が僅か200席しかありません。そんなお粗末ともいえる、メインアリーナの観客席となってしまいました。今回はその反省もいかしながら設計しなければならないと考えます。

市長は自身のマニフェストに「地域（コミュニティ）を育む」を掲げ、その中で新総合体育館の整備について言及しています。

また、令和4年3月定例会で、渡辺利彦議員が新総合体育館について質問をした際に、市長は答弁で「人口推移や財政状況を鑑み、現施設と同規模での建設を予定している。令和4年度から5年度にかけて基本構想、基本計画をし、具体的内容を決める予定だ。」とも述べていました。

今回、私は基本構想及び基本計画の参考になるように、もう少し具体的な質問をしていきます。

設計・建設される新総合体育館は、外見の見栄えや格好にはこだわらず、機能性に富んだ中身のある体育館を作って欲しいと願います。また、使いやすく、多くの市民の方々に利用され、愛され、郡内最大都市に恥じない体育館にしなければならないと考えます。

公益財団法人日本スポーツ協会が発行している「Sport Japan」で地域に根付いた施設の設計を手掛けている永廣正邦氏の記事を読みました。その中でかつて日本の施設設計は建設サイドの声が大きく、実際に施設を運営する人々の意見が反映されにくい側面があり、その結果「ハコモノ」と呼ばれる稼働率の低い体育館ができたそうです。そこで、永廣氏は現在の設計は、運営側が目指すべき将来的なビジョンを取り入れ、議論しあいながら進めていくことが大切だと言っています。また、街づくりを含めて設計し、市民が日常のコミュニケーションの場として気楽に集まれるような場所にする、普段から積極的に行きたくなるような場所にする、結果多くの人を集め、スポーツをさまざまな角度から楽しむ機会の創出にもつながるとも言っていました。

永廣氏の記事を受け、私は今回の新総合体育館の建設に対して、「スポーツをする場」、「スポーツイベントを楽しむ場」、「スポーツ以外のイベントを楽しむ場」とした室内施設を建設すべきだと考えます。

「スポーツをする場」とは様々な競技の練習はもちろんのこと、市民が気軽に運動を楽しめる場にする。

「スポーツイベントを楽しむ場」とは各種競技の関東大会、全国大会の開催ができる場であること。また、バスケット・バレーボールなどのプロリーグの試合や、各種競技のアジア大会・世界大会等を誘致し、市民がスポーツ観戦の醍醐味を楽しめる場にする。

「スポーツ以外のイベントを楽しむ場」とはコンサートや展示会等の文化的なイベントやエンターテインメントのイベントを開催ができる場にする。

施設として、これらのことが実現可能であり、市民の憩いの場にするのが大切だと考えます。

また、このような体育館を実現するためには、最低でもメインアリーナの広さはバスケットコート3面、固定観客席1、600席・可動式観客席1、400席が必要です。

郡内の屋外施設では富士河口湖町には「くぬぎ平スポーツ公園」・山中湖村には「山中湖交流プラザきらら」があります。そこでは屋外の施設を利用したイベントやスポーツ大会が開催されています。県内外から大勢の人が集まっていると聞いています。また各種イベント等の実施により、宿泊業や飲食店等、様々な人達が恩恵を受けています。

屋外施設では他の町村に先を越されていますが、富士吉田市は屋内施設を充実させることで、他の市町村との差別化が図られ、独自の施設として他市町村に向けてもアピールできると考えます。まさに今建設しようとしている新総合体育館がそのチャンスです。「スポーツ振興の街」のシンボルとなり、観光の目玉にしようではありませんか。

そこで1つ目の質問です。

「私がいままで述べた事を念頭に基本構想、基本計画を立てられればと考えていますが、富士吉田市としての見解をお聞かせください。また、どのくらいの規模で、その施設の内に何を作るのか、その概要も教えてください。」

2つ目の質問は、本市は令和3年10月10日に全国で初の「転倒予防都市」を宣言してから1年が経とうとしています。その基本計画の中に転倒予防の3つの柱「食事」・「運動」・「環境」があり、その内容を要約すると、食事は3食バランスよく食べましょう！運動は1日1回しましょう！環境は転ばない為の勉強をして、身の回りの整理整頓をしましょう！というようなことが書いてあると私は解釈していますが、それだけで良いのでしょうか。

そこで、私は体育館内に「転倒予防都市ふじよしだ」にふさわしい施設を建設したらよいと考えました。それはランニングコースです。

市民の健康の維持増進を考え、一年通して使用ができるランニングコースを新体育館内に作ったらどうでしょうか？「転ばないまち転倒予防都市富士吉田」にふさわしい体育館になると考えます。私は柔道の大会・柔道の招待試合や練習会を通して、全国各地の総合体育館を見てきました。2018年に完成の福岡市総合体育館、1990年に完成の町田市総合体育館、そして1981年（昭和56年）に建設された相模原市総合体育館にもランニングコースがありました。鐘山総合体育館に施工日が近い相模原市総合体育館を例に上げますとメインアリーナの観客席は約1600席、メインアリーナの広さはバスケットコート3面、その観客席の周りを一周できる224mのランニングコー

スが有ります。このような体育館を見て「凄い工夫のある建設だなあ」、「こういう工夫が富士吉田市の新体育館にも必要だなあ」と痛感しました。富士吉田市の冬は非常に寒く、雪が降れば歩道には雪が積まれ、路面が凍結し転倒する恐れがあるため、散歩すらできなくなります。また雪が降らなくても日中の気温も上がらず、寒いために屋外で運動することも、散歩することもできません。

市民は冬場の運動をする場がなくて困っています。ぜひ体育館内にランニングコースを建設してください。それがあれば冬場でもたくさんの市民がウォーキングやランニングで利用するでしょう。そして、転倒予防都市としての取り組みの一つにつながると思います。

このようなランニングコースを新総合体育館に設計して頂きたいと考えていますが、執行者の考えをお聞かせください。

以上で1回目の質問を終わります。

## 1 回目の市長答弁

渡辺将議員の新総合体育館の整備計画についての御質問にお答えいたします。

まず、1点目の新総合体育館基本構想・基本計画の見解及び施設の概要についてですが、本年度より、新総合体育館建設基本構想・基本計画策定に向けて作業を進めているところであります。

今後の予定といたしましては、市民や施設利用者等に対するアンケート調査、スポーツ関係団体等へのアンケート調査又はヒアリングを実施し、要望やニーズなどの意見を整理した上で、外部委員を含めた検討組織において検討を重ね、新総合体育館建設に向けた事業コンセプト等を取りまとめ、新総合体育館建設基本構想・基本計画を策定してまいります。

渡辺将議員御発言のとおり、新総合体育館の整備を Manifesto の「地域（コミュニティ）を育む」に位置付けておりますが、これは、スポーツを通じて市民同士の絆がつけられ、次世代を担う子どもたちの体力向上や市民の皆様の健康寿命を延ばすこと、また、そのコミュニティの場としての新総合体育館整備の必要性を痛感したためであります。これらのことを踏まえ、本市の人口推移や財政状況を鑑みるなかで、新総合体育館は、現施設と同規模での建設をする方向性であります。しかし、メインアリーナの広さや観客席の数など具体的な施設の内容等につきましては、アンケート調

査やヒアリングの結果を基に、基本構想・基本計画の中で策定してまいりたいと考えております。

次に、2点目の新総合体育館へのランニングコースの設計についてであります、現在の鐘山総合体育館内にも、ランニングコースは設置しており、冬場や雨天時などを中心に利用していただいている状況であります。こちらにつきましても、アンケート調査やヒアリングの結果を踏まえた上で、検討してまいりたいと考えております。

以上、答弁といたします。

## 2回目の質問

2回目の質問の前に、ランニングコースの件ですが、先程の市長の答弁において、新総合体育館内の設置を検討して頂けるという事なので改めてお願いします。

それでは「新総合体育館の整備計画について」の2回目の質問をさせていただきます。

先程の市長の答弁の中で新総合体育館は現施設と同規模とおっしゃっていました。果たしてそれでよいのでしょうか。

現体育館の施設の概要はメインアリーナ（バスケットコート2面）、サブアリーナ（バスケットコート1面）、弓道場、会議室兼スポーツ教室、トレーニングルームです。また、ダンスやヨガ教室をするスペースがなく、職員の方々が工夫して会議室を改装してスポーツ教室として利用しています。

本当にこんなに小さな規模の体育館でよいのでしょうか。総合体育館にも関わらず武道場すらありません。

これからの新総合体育館に何が求められるか考えていただきたいです。現施設では総合体育館としては不十分です。

私が1回目の質問で相模原市総合体育館を例に挙げた理由をお判りでしょうか。それは、鐘山総合体育館と同じ時期に建設され、今もなお十分に施設として機能しているからです。相模原市が将来を見据えて設計段階で工夫をしていた結果だと思えます。

また、富士吉田市の新総合体育館は30年後、40年後の市民も満足して使える、持続可能な体育館として作らなければならないと私は考えています。しっかりとした施設を今作っておけば、昨年リニューアルした下吉田コミュニティーセンターのように新たな需要が生まれた際にも、改修工事のみで生まれ変わるからです。

また、メインアリーナの広さをバスケットコート3面にこだわる理由についてです。

富士吉田市の室内競技はとても盛んです。その中でもバスケットボールは人気があります。小、中、高とたくさんの子供たちが体育館を利用して練習をしています。そして成績も山梨県でトップクラスです。また、大人のクラブチームもたくさんあり、シニアチームは日本一に輝いています。同時にいくつかの団体に練習利用ができれば、そこでの交流も生まれる可能性があります。その他にも、ママさんバレーやバドミントンなど室内で行う競技がたくさんあり体育館を予約するのに苦労しているとも聞いております。

さらに、各種大会が行われる際に、バスケットコート3面の広さがあると、試合会場としての利便性が数段高まります。また、そのことで、関東や全国規模の大会会場としての利用価値が生まれると考えます。

令和元年11月22日の毎日新聞の記事で山梨県は2031年に開催される第86回国体を誘致する方針を明らかにしたと書いてありました。コロナの影響で2～3年は先に延びると思いますが、今後、必ず国体が山梨県で開催されます。その時に備えて準備が必要だとも考えます。

また、柔道競技は8月に行われたインターハイで地元富士学苑高校女子柔道部が日本一になり、小・中学生の大会でも市内のチームが常に県大会で上位の成績を上げています。下吉田コミュニティセンターでは練習時間を譲り合いながら空手、剣道をはじめ子供から大人まで日々稽古に励んでいます。

ゆえに、いずれかの競技が立候補し、新総合体育館を国体会場として使いたいと考えることがあるかもしれません。しかしながら、現状の案では武道場の計画がなく、大会を実施することは難しいです。その時のためにも、今しっかりと計画の上で建設すべきだと考えます。

先日、富士吉田・忍野スマートインターチェンジが開業されて、都心から約2時間で来られるようになりました。体育館内の施設が充実していれば大学生の合宿や会社のオリエンテーションで使用される可能性もあるでしょう。そして稼働率も上がり維持費の負担も減るでしょう。

それでは1つ目の質問です。

柔道、剣道、空手などの武道をしている人たちが試合や稽古をする場がなくて困っています。近隣の市町村には武道館も武道場もあります。新総合体育館の施設の中に柔道場、剣道場が分かれている武道場も建設して頂けるでしょうか。

2つ目の質問はアンケート調査、ヒアリングをしてからアリーナの広さを決めるというお答えでしたが、その結果、バスケットボールコート3面が良いという回答が多かった場合はどうなさるかお答えください。

3つ目の質問はこの新体育館で中学校・高等学校の関東大会や全国大会が開催された際、訪れた子供たちやその保護者が富士吉田市の良さを知ってリピーターとして合宿地や観光地として再び訪れてもらえるような施策をお持ちでしょうか。

以上で2回目の質問を終わります。

## 2回目の市長答弁

渡辺将議員の2回目の御質問にお答えします。

まず、1点目及び2点目の新総合体育館内への武道場の建設、アリーナ等の規模についてであります。先ほど答弁申し上げましたとおり、具体的な施設の内容等につきましては、アンケート調査やヒアリング等を通じて、市民の皆様がどのような新総合体育館を望んでいるか把握をした上で、外部委員を含めた新体育館建設検討委員会において、コンセプトや方向性等を総合的に検討し、新総合体育館建設基本構想・基本計画の中で策定してまいりたいと考えております。

次に、3点目の御質問についてであります。新体育館を利用した子どもたちや保護者等に本市の良さを知って頂き、リピーターとして再び訪れていただく施策として、現在よりも規模の大きな新総合体育館を建設し、関東大会、全国大会を開催することが、必ずしも必要であるとは考えておりません。そのために、新倉山浅間公園の整備はもとより、富士の杜・巡礼の郷公園の整備や、ふじさんミュージアムに新たなVR映像展示の導入を進めるなど、多方面からの事業展開を図り、市の魅力発信に努めております。

いずれにいたしましても、新総合体育館に関する施設の具体的な内容につきましては、本市の人口推移や財政状況、ランニングコスト等を十分に考慮するとともに、本市には、体育館を始めとして陸上競技場や野球場などを備える山梨県立富士北麓公園

があり、大変恵まれたスポーツ環境であることも踏まえたなかで、総合的に判断していかなければならないと考えております。

そして、スポーツを「する」「みる」「ささえる」といった様々な参画を通じて、多くの市民がスポーツの楽しさや感動を分かち合えるよう、本市のスポーツ文化の推進を図るとともに、「いつでも、どこでも、誰でも」スポーツに親しめるよう、生涯スポーツの活動拠点としてはもちろん、地域コミュニティの場として、また、持続可能なまちづくりの一環として、時代のニーズに合った安心・安全で快適な施設となるよう事業を進めてまいります。

以上、答弁といたします。

#### 「締め言葉」

今回は新総合体育館についての質問をさせて頂きました。執行部の回答は基本構想、基本計画がまだ煮詰まっておらず、今後、多くの議論を重ねる必要があると感じました。

市民の大切な税金で建設する体育館です。

ぜひ、富士北麓地域におけるスポーツのメッカとして、また、多くの市民やスポーツ団体の皆様に夢や希望を与えるような体育施設として検討していただくことを切にお願い申し上げます、私の一般質問を終わります。